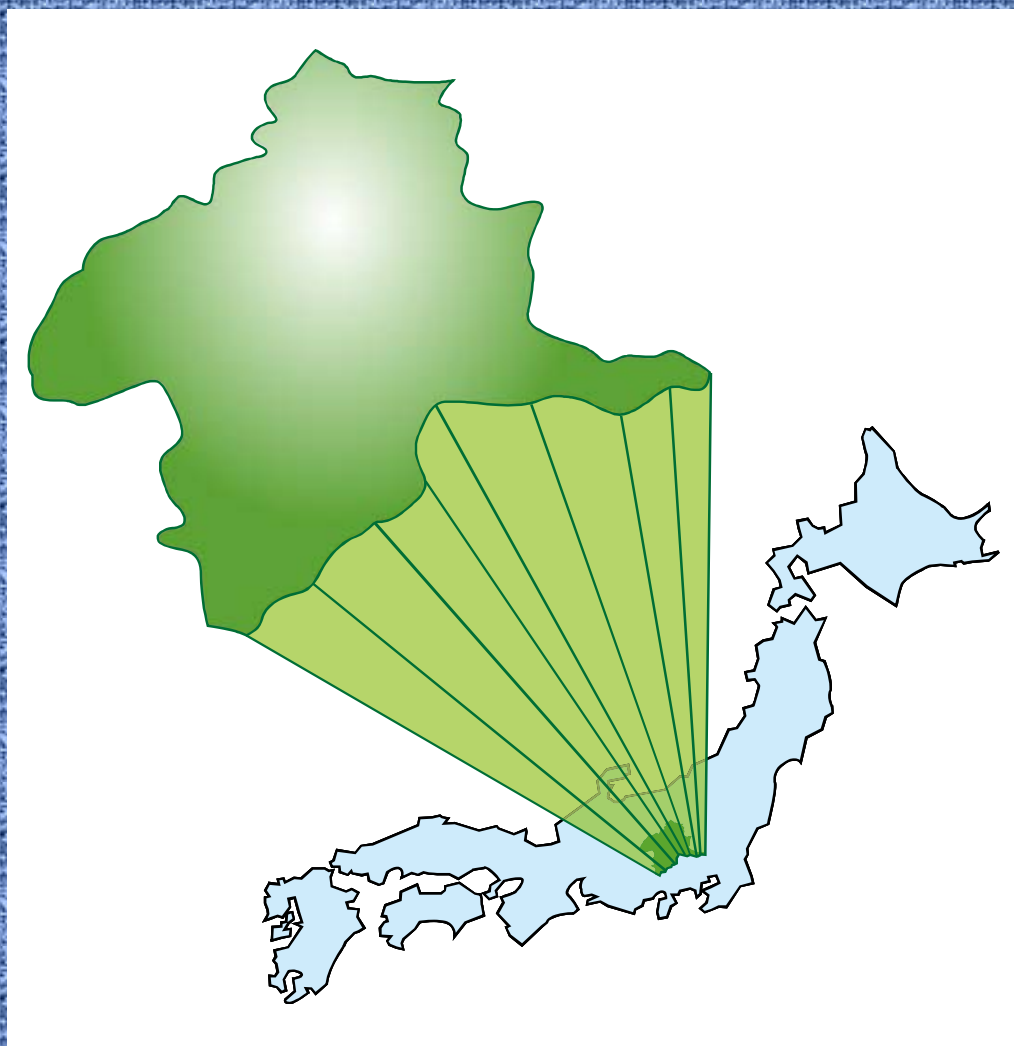


ぐんまの道づくり

平成18年度達成度報告書
(アウトカムレポート)



群馬県道路協議会

も く じ

1. アウトカムレポートの策定について …… 1
2. 政策方針と成果指標の設定 …… 2
3. 成果指標による業績の評価 …… 4
4. 交通事故の削減 …… 5
5. 医療・福祉の向上 …… 6
6. 渋滞の解消 …… 8
7. 自転車走行空間の確保 …… 10
8. 産業・観光の振興 …… 11
9. 情報の公開 …… 14
10. 今後の課題 …… 15

1. アウトカムレポートの策定について

地域における道路行政マネジメントの確立に向けて

新たな道路行政への転換

- 道路行政では、他の行政分野、公共事業分野に先駆けて、成果主義の行政マネジメントを推進しています。
- 群馬県においても、平成 15 年度より、目指すべき成果を事前に宣言した「ぐんまの道づくりアウトカムプラン」を公表し、成果主義の道路マネジメントを開始しています。

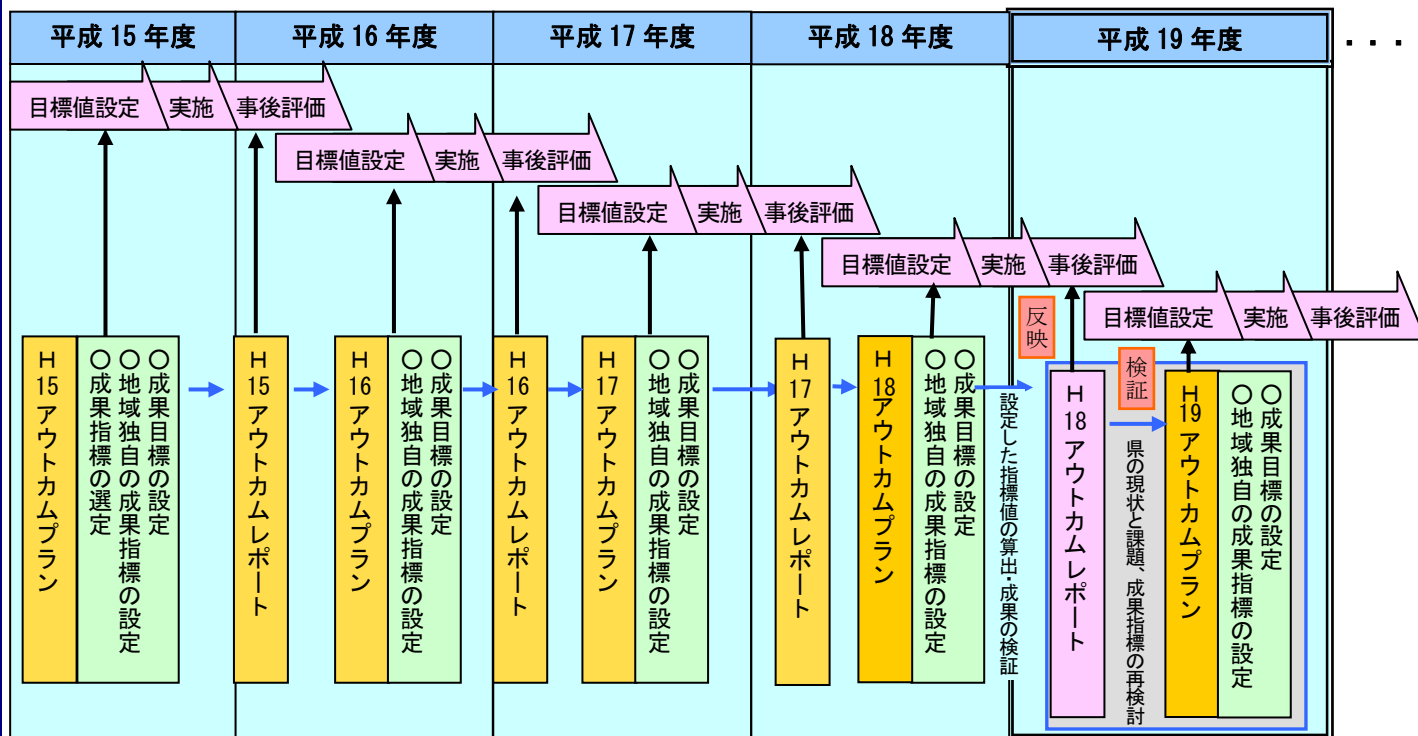
目標年度まで残り2年となる四巡目の道路行政マネジメントを実施

- 平成 18 年度は、平成 19 年度までの5年間の後半年度にあたり、事前に数値目標を明確に打ち出し、事後に達成度を検証し、評価結果を次年度の行政運営に反映するという「マネジメント・サイクル」も四巡目を迎えました。
- 今後も引き続き、より透明性、客観性の高い効果的、効率的な施策、事業の展開を図るとともに、より一層県民の皆様の生活実感にあう道路行政の実現に向けた取組を進めます。

「平成 18 年度アウトカムレポート」の策定

○群馬県では、県民の皆様の生活実感にあう道路行政への転換を目指し、地域の特性や課題、ニーズを踏まえて選定した成果指標に基づく「平成 18 年度アウトカムレポート」を策定いたしました。ポイントは以下の3点です。

- ①年度当初に成果指標の現況値及び事業実施に伴う年度末の目標値を提示
- ②実施する施策・事業の内容及び期待される成果を詳細に検証
- ③これまでの反省を今年度に活かす枠組み（マネジメント・サイクル）の導入



2. 政策方針と成果指標の設定

4つの方針と指標の選定

「平成18年度アウトカムプラン」では、群馬県の道路行政が目指すべき成果を示す指標として、施策の特性に応じた10指標を設定し、4つの施策方針（政策課題）に応じて分類した上で、以下の3点を県民の皆様にご提示しました。

1. 社会的背景（群馬県の課題など）や施策の必要性
2. 平成18年度に実施される事業
3. 事業により改善が期待される指標の現況値・目標値

方針	群馬県の課題	平成18年度成果指標
県民の生活を守り、安心して暮らしを実現する道路整備	交通事故の削減	あんしん歩行エリアの整備 事故危険箇所への対策推進 死傷事故率の減少
	医療・福祉の向上	総合病院30分到達カバー圏域の拡大
環境を保全し、豊かな生活を支援する道路整備	渋滞の解消	渋滞箇所への対策推進 渋滞損失時間の削減
	自転車走行空間の確保	サイクリングロード整備率
地域の自立と個性を守る道路整備	産業・観光の振興	幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大 規格の高い道路の利用率の向上
	情報の公開	ホームページアクセス数

事業の実施による成果指標値の改善状況の把握・検証と課題の整理：
「平成18年度アウトカムレポート」

平成19年度の群馬県の道路行政への取組：「平成19年度アウトカムプラン」

「達成度報告書」、「業績計画書」と「道路見える化計画」との連動

■「道路見える化計画」とは



国や地方の財政が逼迫する中で、これからの行政は、限られた予算で効率よくサービスを提供していかなければなりません。

そこで国土交通省では、道路の課題をデータできちんと把握し、その最適な解決法を見だし、解決を急ぐべきところから対策を講じていくため、「道路見える化計画」を推進しています。

課題のデータや、それに基づいた解決策とその結果を利用者、納税者の皆さんに「見える化」し、効率的に道路行政を進めていくほか、今まで見えにくかった道路行政を、もっとわかりやすく「見える化」することも、もう一つの目的です。工事の実施の際にも、何のための工事か「見える化」していきます。

群馬県内の各道路管理者では、現在、「渋滞見える化プラン」や「交通安全見える化プラン」などの取組を始めています。

渋滞見える化プラン

「渋滞見える化プラン」では「渋滞箇所」「走りにくさ」「災害」「地形・気象」の4つの視点から問題箇所を抽出し、さらに道路利用者の皆様からの意見を基に、39箇所の渋滞箇所を設定しています。

交通安全見える化プラン

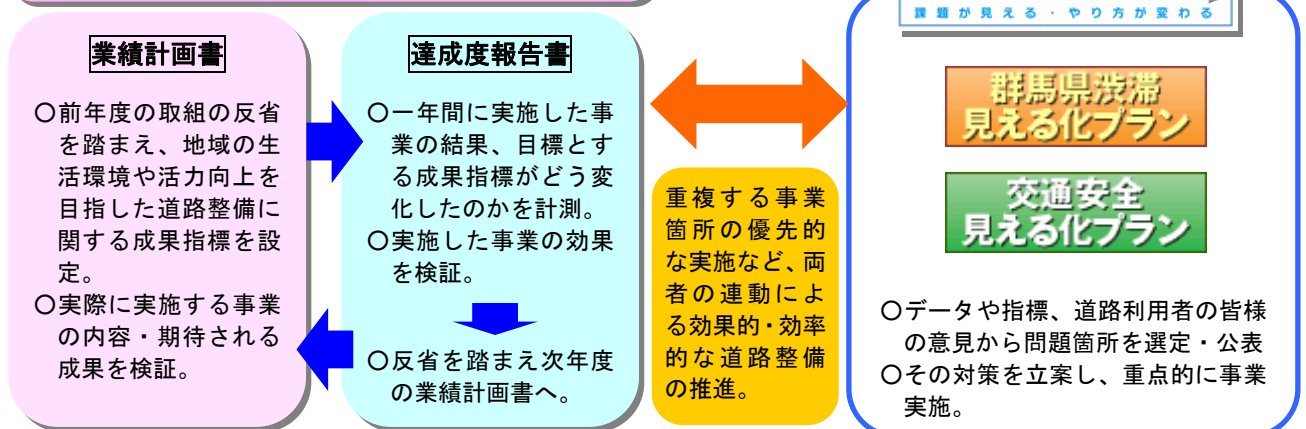
「交通安全見える化プラン」では、群馬県の交通事故特性を考慮して「死傷事故率」「死者率」「歩行者・自転車事故」「夜間事故」「子供の事故」「高齢者の事故」「横断者の事故」「安全性が危惧される箇所」から問題箇所を抽出し、渋滞と同様に道路利用者の皆様からのご意見を加味して、代表的な箇所34箇所を設定しています。

■「達成度報告書」、「業績計画書」と「道路見える化計画」との連動

群馬県では、平成15年度より、道路を整備することによる地域の生活環境の向上を客観的な指標で評価し、その結果を次の道路整備計画につなげていくためのしくみを導入しています。道路整備による地域の生活環境向上や活力向上のための目標（指標）をあらかじめ設定し、実際の道路整備がその指標の向上にどのように寄与したかを点検・評価する「達成度報告書」と、前年度の達成度を基に、次年度の新たな目標を設定する「業績計画書」を策定し、「道路行政マネジメント」の確立を進めています。

今後は、「道路見える化計画」に基づいて、事業の優先順位を明確にしながら、効率的・効果的な整備を進め、地域の暮らしやすさや活力の向上に資する道路整備を推進します。

ぐんまの道づくり「達成度報告書」「業績計画書」



3. 成果指標による業績の評価

「平成18年度アウトカムプラン」において平成18年度の目標値を設定した指標のうち、渋滞の解消や交通事故の削減などの成果があり、目標を達成しました。その他の指標についても目標達成に向けて事業を引き続き進めてきました。

方針	課題	成果指標(単位)	対象路線・範囲	H17現況値	H18目標値	H18実績値	目標達成状況	
県民の暮らしを守り、安心した暮らしを実現する道路整備	交通事故の削減	あんしん歩行エリアの整備(箇所)	直轄国道 一般国道 県道 市町村道	16箇所 (着手14箇所)	16箇所ですり、あんしん歩行エリア内の死傷事故件数2割削減に向けて事業を継続する。	着手15箇所 ・完了7箇所 ・事業中8箇所	事業 継続中	
		歩行者及び自転車の安全な通行を確保する「あんしん歩行エリア」の整備とそれに伴う死傷事故の削減を成果とする。						
		事故危険箇所への対策推進(箇所)	直轄国道 一般国道 県道	174箇所 (着手156箇所)	着手165箇所(完了148箇所、一部完了15箇所)とし死傷事故件数3割削減への事業を継続する。	着手165箇所 ・完了140箇所 ・一部完了22箇所	事業 継続中	
死傷事故が多発する「事故危険箇所」への対策とそれに伴う死傷事故の削減を成果とする。								
医療・福祉の向上	総合病院30分到達カバー圏域の拡大(%)	1万台の自動車1万km走行した場合に発生する死傷事故数の削減を成果とする。	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	144.7件/億台km ^{注1}	死傷事故率の削減を目指す。	140.2件/億台km	○ 目標 達成	
								総合病院に30分以内に到達できるエリア(可住地面積に対する割合)の拡大を成果とする。
								高速道路 直轄国道 一般国道 県道
環境を保全し、豊かな生活を支援する道路整備	渋滞の解消	渋滞箇所への対策推進(箇所)	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	対策事業 ・完了25箇所 ・一部完了20箇所 ・未整備15箇所	新たに、完了2箇所、一部完了1箇所への対策を推進する。	対策事業 ・完了27箇所 ・一部完了24箇所 ・未整備9箇所	○ 目標 達成	
渋滞箇所への対策を成果とする。								
渋滞損失時間の削減(万時間/年)		高速道路 直轄国道 一般国道 県道	対策完了予定2箇所の渋滞損失時間 14.3万時間/年	渋滞損失時間の削減を目指す。	対策完了2箇所に おいて約0.6万時間/年削減 (4.2%削減)	○ 目標 達成		
渋滞によって失われてしまう時間の削減を成果とする。								
地域の自立と個性を守る道路整備	産業・観光の振興	幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大(%)	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	81.4%	幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大を目指し事業を継続する。 将来的には100%(すべての市町村が30分圏域に)を目指す。 (平成18年度実績値 81.4%)	事業 継続中		
		新幹線駅または高速道路などのインターチェンジまで30分程度で到達可能な市町村数の増加を成果とする。						
情報の公開	情報の公開	規格の高い道路の利用率の向上(%)	高速道路 直轄国道 一般国道 県道	10.6% ^{注2}	規格の高い道路の利用率向上を目指し事業を継続する。	0.2ポイントの向上 (平成18年度実績値:10.8%)	○ 目標 達成	
		目的地により早く、確実に到達できる規格の高い道路が利用される割合の向上を成果とする。						
サイクリングロード整備率(%)	サイクリングロードネットワーク計画の対象路線	60.2%	平成18年度の「サイクリングネットワーク計画」概成に向けて事業を継続する。 (平成18年度実績値:64.5%)	事業 継続中				
サイクリングロードの整備計画のうち、実際に整備された割合の向上を成果とする。								
ホームページアクセス数(件/年)	全国	216,526件/年 (HPアクセスのみ ^{注3})	平成17年度の約20%増加を目指す。 (約26万件/年)	226,378件/年 対前年度比0.5%増。	継続中			
国土交通省高崎河川国道事務所、群馬県道路関係課のホームページアクセス数の増加を成果とする。								

(注1)H17年現況値はH17実績値の確定値144.7件/億台kmを記載。平成18年度業績計画書では、H17実績値の速報値142.3件/億台kmを記載。

(注2)H17年現況値はH17実績値の確定値10.6%を記載。平成18年度業績計画書では、H17実績値の速報値10.4%を記載。

(注3)平成18年度の国土交通省ホームページカウンターが故障していたため、携帯アクセスをカウントから外した値で比較。

4. 交通事故の削減

指標1 あんしん歩行エリアの整備（箇所）

事業継続中

歩行者及び自転車の安全な通行を確保する「あんしん歩行エリア」の整備とそれに伴う死傷事故の削減を成果とします。

- 平成17年度現況値：事業継続中（16箇所中、着手箇所14箇所）
- 平成18年度目標値：エリア内での死傷事故件数2割削減に向けて事業継続（16箇所全てで着手の予定）
- 平成18年度実績値：事業継続中（16箇所中、着手箇所15箇所）
⇒ **事業継続中**（16箇所中、着手箇所15箇所（着手率：93.7%））

指標2 事故危険箇所への対策推進（箇所）

事業継続中

死傷事故が多発する「事故危険箇所」への対策推進とそれに伴う死傷事故の削減を成果とします。

- 平成17年度現況値：事業継続中（174箇所中、着手156箇所、対策完了113箇所、一部完了39箇所）
- 平成18年度目標値：エリア内での死傷事故件数3割削減に向けて事業継続（174箇所中、着手165箇所、対策完了148箇所、一部完了15箇所の予定）
- 平成18年度実績値：指定を受けたエリアで継続的に事業を実施
⇒ **事業継続中**（174箇所中、着手箇所165箇所、対策完了140箇所、一部完了22箇所）

指標3 死傷事故率の減少（件/億台km）

◎ 目標達成

1万台の自動車が1万km走行した場合に発生する死傷事故数の減少を成果とします。

- 平成17年度現況値：144.7件/億台km^{（注）}
- 平成18年度目標値：死傷事故率の削減を目指す
- 平成18年度実績値：140.2件/億台km（4.5件/億台kmの削減） ⇒ **目標達成**

（注）H17年現況値はH17実績値の確定値144.7件/億台kmを記載しています。平成18年度業績計画書では、H17実績値の速報値142.3件/億台kmを記載。

■昨年度までの状況

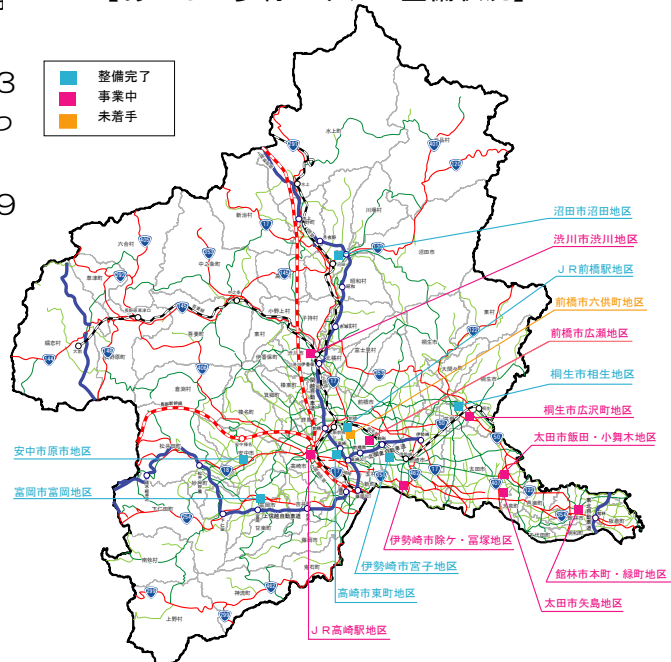
- あんしん歩行エリアは全16箇所中、14箇所では事業着手しており、7箇所では事業が完了しています。
- また、事故危険箇所については、全174箇所中、113箇所では対策が完了したほか、39箇所では一部完了となっています。
- 死傷事故率は144.7件/億台kmと平成16年値に比べ0.9件/億台km減少しており、対策の効果が現れています。

■達成度報告

◇あんしん歩行エリアの整備◇

- 歩行者及び自転車利用者の安全な通行を確保するため緊急に対策が必要な住居系地区又は商業系地区16箇所を「あんしん歩行エリア」として指定し、歩行空間や信号機、交差点の改良や歩行者・自転車を優先するゾーンの形成を進めています。
- 今年度には、新たに前橋市広瀬地区で事業に着手し、16箇所中、15箇所では事業着手となっています。

【あんしん歩行エリアの整備状況】



番号	地区名	備考	進捗
1	JR前橋駅(北口・南口)地区	歩道、コミュニティ道路の整備	完了
2	前橋市広瀬地区	歩道、コミュニティ道路の整備	事業中
3	前橋市六供町地区	歩道、コミュニティ道路の整備	未着手
4	JR高崎駅(東口・西口)地区	歩道、駐輪施設の整備	事業中
5	高崎市東町地区	通学路、バリアフリー整備	完了
6	洪川市洪川地区	通学路、バリアフリー整備	事業中
7	富岡市富岡地区	歩道整備、電線類地中化	完了
8	安中市原市地区	幹線道路の対策	完了
9	沼田市沼田地区	歩道、コミュニティ道路の整備	完了
10	伊勢崎市宮子地区	歩道の段差・勾配の解消	完了
11	伊勢崎市除ヶ・富塚地区	歩道の段差・勾配の解消	事業中
12	太田市飯田・小舞木地区	歩道、コミュニティ道路の整備	事業中
13	太田市矢島地区	歩道、コミュニティ道路の整備	事業中
14	桐生市相生地区	歩道、コミュニティ道路の整備	完了
15	桐生市広沢町地区	歩道、コミュニティ道路の整備	事業中
16	館林市本町・緑町地区	歩道整備、電線類地中化	事業中

■ : 平成17年度以前の事業着手箇所

■ : 平成18年度の事業着手箇所



安心歩行エリアの整備事例 桐生市相生地区 (県道相老停車場線 歩道の設置)

◇事故危険箇所の整備◇

○死傷事故率が高く、死傷事故が多発している 174 箇所を「事故危険箇所」として指定し、交差点の改良、右折車線や道路照明の設置、道路標識や歩道の整備など、面的かつ総合的な死傷事故対策を講じています。

○平成 18 年度までに全 174 箇所中 165 箇所事業に着手、140 箇所対策が完了し、22 箇所では一部完了となりました。

◇交通事故死傷率◇

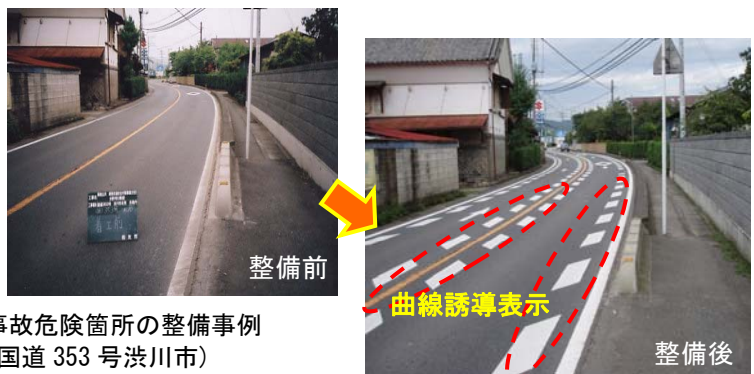
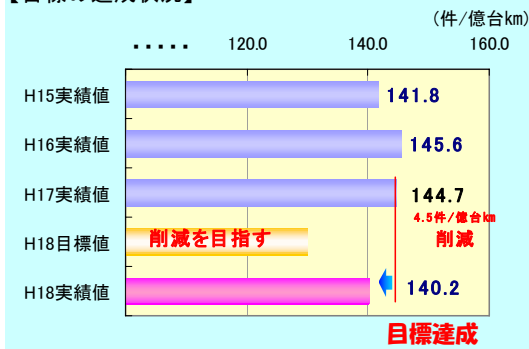
○あんしん歩行エリアや事故危険箇所など、事故の多発する地点での交通安全対策を集中的に進めた結果、平成 18 年度は 140.2 件/億台kmと、前年度より 4.5 件/億台kmの削減となりました。

	全体	実数(箇所)			構成比(%)		
		着手箇所	一部完了	完了	着手箇所	一部完了	完了
国の管理区間	27	27	3	22	100.0	11.1	81.5
都道府県・政令市の管理区間	147	138	19	118	93.9	12.9	80.3
全体	174	165	22	140	94.8	12.6	80.5



事故危険箇所の整備事例 ((主)高崎洪川線吉岡町) 路面への「横断歩道あり」の表示

【目標の達成状況】



事故危険箇所の整備事例 (国道 353 号洪川市) 路面への「曲線部の誘導」の表示

■今後の課題

○あんしん歩行エリア及び事故危険箇所の整備を推進した結果、死傷事故率はわずかながら改善傾向に転換しています。全国的にみると本県の死傷事故率はワースト 17 位であり、昨年度のワースト 9 位より上昇しました。今後も引き続き事業を進め、より一層の改善を目指していきます。

○あんしん歩行エリアは平成 19 年度までにエリア内での死傷事故件数の 2 割削減、事故危険箇所は同 3 割の削減を目指していますが、当該箇所における事故件数の把握が困難なため、整備とその効果との関係が見えにくくなっています。そのため、指標の見直しを含め、わかりやすいものとしていきたいと考えています。

○歩行者・自転車の死傷事故率は、生活道路で 66%(平成 17 年、全国*)が発生していることから、事業実施にあたってはこうした生活道路を優先的に進めていくことが必要となっています。

※国土交通省道路局資料

5. 医療・福祉の向上

指標4 総合病院30分到達カバー圏域の拡大(%)

事業継続中

総合病院に30分以内で到達できるエリア(可住地面積に対する割合)の拡大を成果とします。

- 平成17年度現況値:83.6%
- 平成18年度目標値:カバー圏域の拡大を目指し事業を継続
- 平成18年度実績値:83.6% ⇒ **事業継続中**

■昨年度までの状況

- 平成17年度末現在、県内に16箇所ある総合病院に30分以内で到達できる面積の割合は83.6%で、平成17年度中に圏域拡大に寄与する道路の供用開始がなかったため、83.6%に変化はありません。
- 山間部を中心に20%弱の地域で、水準の高い医療サービスが享受しにくい状況となっていることから、該当路線の早急な整備を進めています。

■達成度報告

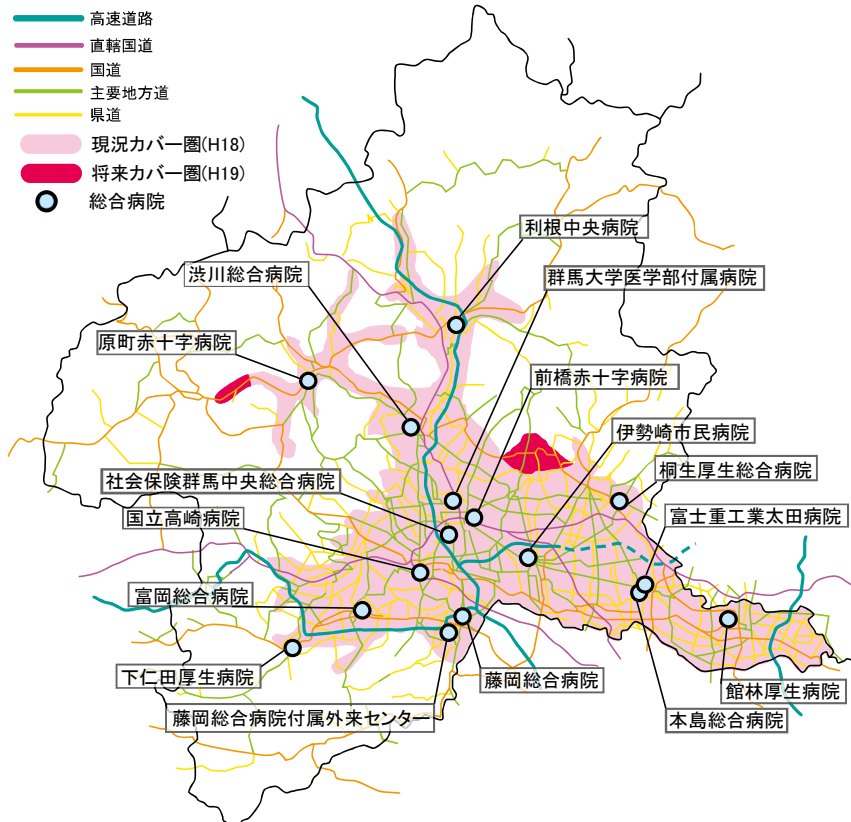
- 平成18年度には(一)苗ヶ島飯土井線、(一)林長野原線、(一)林東吾妻線の道路整備を進めましたが、新たに供用開始となった区間がなかったため、指標は変化なく83.6%のままとなっています。

【総合病院30分到達カバー圏域拡大のための主な事業】

路線名	事業の内容	対象市町村
(主)中之条湯河原線	須川バイパス整備(みなかみ町)	みなかみ町
(一)苗ヶ島飯土井線	新規路線の整備(前橋市)	前橋市・桐生市
(一)林長野原線	バイパス整備(長野原村)	長野原村・東吾妻町
(一)林東吾妻線	バイパス整備(長野原村～東吾妻町)	長野原村・東吾妻町

■:整備完了

【総合病院30分到達カバー圏域(平成18年度末)】



■今後の課題

- 平成19年度までにカバー圏域を85.2%に拡大することを目標として、圏域拡大に資する道路である(一)苗ヶ島飯土井線、(一)林長野原線、(一)林東吾妻線の整備を進め、県内のすべての地域において水準の高い医療サービスが受けやすい環境の実現を目指します。

6. 渋滞の解消

指標5 渋滞箇所への対策推進（箇所）

○ 目標達成

渋滞箇所（未整備箇所）の対策を成果とします。

○平成17年度現況値：完了25箇所、一部完了20箇所、未整備15箇所

○平成18年度目標値：新たに、完了2箇所、一部完了1箇所へ向けた対策推進

○平成18年度実績値：完了箇所を2箇所追加、一部完了を4箇所追加 ⇒ **目標達成**

指標6 渋滞損失時間の削減（万時間/年）

○ 目標達成

渋滞によって失われてしまう時間の削減を成果とします。

○平成17年度現況値：対策完了予定2箇所の渋滞損失時間14.3万時間/年

○平成18年度目標値：渋滞損失時間の削減を目指す

○平成18年度実績値：対策完了2箇所において約0.6万時間/年削減（4.2%削減） ⇒ **目標達成**

■昨年度までの状況

○昨年度末までに、渋滞箇所の解消、渋滞損失時間の削減のため、未整備となっていた主要渋滞ポイント 17 箇所重点的な整備を進め、3 箇所ですべて完了しました。

○その結果、渋滞損失時間は、平成 16 年度に比べ 2.4 万時間/年の削減となりました。

■達成度報告

○本年度は、渋滞箇所の解消、渋滞損失時間の削減のため、事業中もしくは未整備となっていた主要渋滞ポイント 15 箇所重点的な整備を進め、2 箇所ですべて完了、3 箇所一部完了しました。

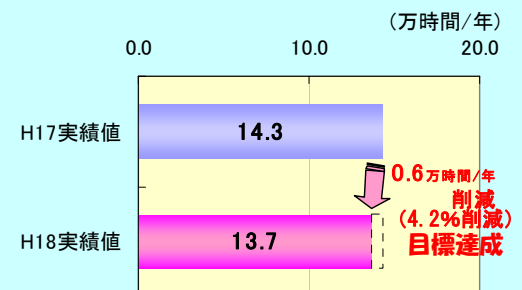
○対策完了2箇所において、渋滞損失時間は約 0.6 万時間/年の削減（4.2%削減）となりました。

【平成 18 年度に完了した対策事業】

番号	主要渋滞ポイント	道路名	対策事業
28	藤阿久交差点	(主)前橋館林線	(主)太田大間々線整備、太田駅周辺東武鉄道連続立体
42	小相木交差点	(主)前橋長瀬線	(都)新前橋駅川曲線4車化

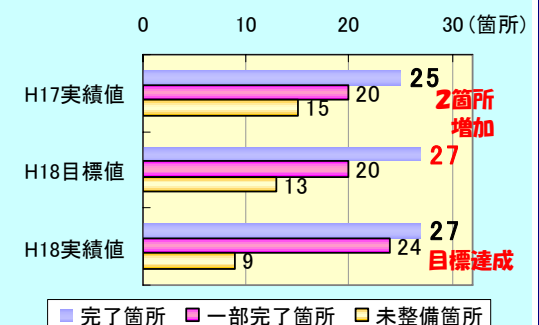
【完了箇所での渋滞損失時間の削減状況】

【目標の達成状況】



【渋滞箇所における事業進捗状況】

【目標の達成状況】



■今後の課題

○未整備の主要渋滞ポイントが 9 箇所、一部完了箇所が 24 箇所あることから、未整備箇所を中心に事業を進め、渋滞箇所の解消と渋滞損失時間の削減に取り組んでいく予定です。

■渋滞箇所における対策事業

道路見える化計画
課題が見える・やり方が変わる

(1) 藤阿久交差点（太田大間々線の整備、太田駅周辺東武鉄道連続立体）

事業箇所	太田市藤阿久町
期 間	(主)太田大間々線 平成7年度～平成14年度 太田駅周辺東武鉄道連続立体交差事業 平成8年度～平成18年度
供用延長	(主)太田大間々線：2,500m 太田駅周辺東武鉄道連続立体交差事業 ：総延長約6,300m

○(主)太田大間々線の整備と太田駅周辺東武鉄道連続立体の整備が完了し、全面供用されました。藤阿久交差点は渋滞が解消され、最大渋滞長 1,600mから 50m、最大通過時間 15分から1分にそれぞれ短縮されました。



【整備状況】
藤阿久交差点

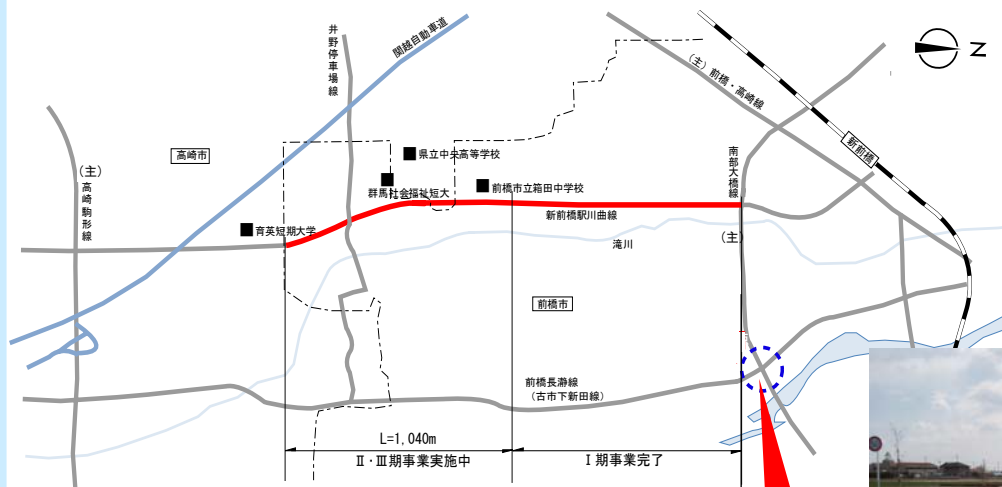
【整備状況】
太田駅周辺
鉄道立体化



(2) 小相木交差点（(都)新前橋駅川曲線4車化）

事業箇所	前橋市小相木
期 間	平成14年度～平成18年度
供用延長	1,040m

○都市計画道路新前橋駅川曲線の4車線化の整備が完了し、供用が開始されました。これにより小相木交差点の渋滞が解消され、地域の活性化と、前橋市と高崎市との交流が促進されています。



小相木交差点

【整備状況】
小相木交差点

7. 自転車走行空間の確保

指標7 サイクリングロード整備率 (%)

事業継続中

計画されているサイクリングロードの整備計画のうち、実際に整備された割合の向上を成果とします。

- 平成17年度現況値：1,496.2km中、901.1km整備（サイクリングロード整備率60.2%）
- 平成18年度目標値：平成18年度の「サイクリングネットワーク計画」概成に向けて事業を継続
- 平成18年度実績値：1,496.2km中、964.5km整備（整備率64.5%） ⇒ **事業継続中**

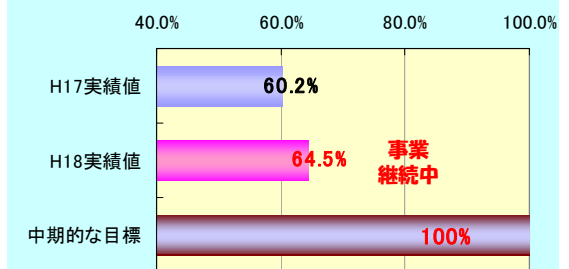
■昨年度までの状況

- 近年、環境への負荷の少なさや健康づくりの視点から自転車が見直されています。県民の皆様が自転車を利用しやすい環境整備を進めるため、サイクリングロードネットワーク計画を策定し、「自転車王国ぐんま」の実現に向け自転車道等の整備を進めています。
- 平成18年度末でのサイクリングロード整備率は64.5%ですが、ネットワーク化率（再整備と裏道については既存施設でもネットワークとして機能しているものとした率）は94.3%となっています。

■達成度報告

○サイクリングロードネットワーク計画に基づき、自転車歩行者専用道路、路面のカラー化などによる自転車と歩行者の分離、段差や勾配の解消、自転車駐車場の整備を進め、計画延長1,496.2km中、平成18年度は964.5kmまで整備を進めました。

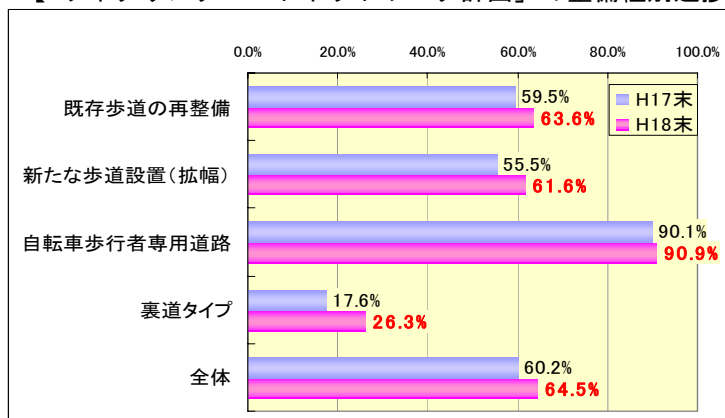
【目標の達成状況】



【「サイクリングロードネットワーク計画」の年度別進捗状況】

	計画延長 (km)	整備済み延長 (km)	未整備延長 (km)	年間整備延長 (km/年)	進捗率
H15	1,496.2	752.8	743.4	74.8	50.3%
H16	1,496.2	818.7	677.5	65.9	54.7%
H17	1,496.2	901.1	595.1	82.4	60.2%
H18	1,496.2	964.5	531.7	64.5	64.5%

【「サイクリングロードネットワーク計画」の整備種別進捗率】



【サイクリングロードの整備事例】
利根川自転車道・前橋市石倉町付近の整備



■今後の課題

- 平成18年度末時点でネットワーク化率としては約94%ですが、整備率は約65%にとどまっております。2～3年での全線整備は困難な状況となっておりますが、一刻も早い完成を目指し、事業を推進する必要があります。
- 成果指標が整備率のみであり、サイクリングロードの整備が自転車利用にどのようにつながっているのかが不明となっているため、新たな指標の導入についても検討する必要があります。
- 群馬県の自転車保有率は平成16年度の72万*台から、平成17年度は84万台*と増加しており、早急にサイクリングロードの整備を進める必要があります。

*自転車産業振興協会『自転車統計要覧』より

8. 産業・観光の振興

指標8 幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大（%）

事業継続中

新幹線駅または高速道路などのインターチェンジまで30分程度で到達可能な市町村数の増加を成果とします。

- 平成17年度現況値：81.4%
- 平成18年度目標値：幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大を目指し事業を継続
- 将来的な目標値：100%（すべての市町村が30分圏域に）
- 平成18年度実績値：81.4% ⇒ **事業継続中**

■昨年度までの状況

- 群馬県では、「幹線交通乗り入れ30分構想」として、すべての市町村から新幹線駅または高速道路などのインターチェンジに30分程度で到達可能を目標として、これに寄与する道路の整備を進めています。昨年度末現在では計画策定時の70市町村中、57市町村が到達可能となっています。
- 到達可能エリア拡大のためには、これに寄与する北関東自動車道をはじめとする新たな高速道路等の整備やインターチェンジ等へのアクセス道路を整備し、通行することが必要となるため、指標向上には時間がかかる状況となっています。

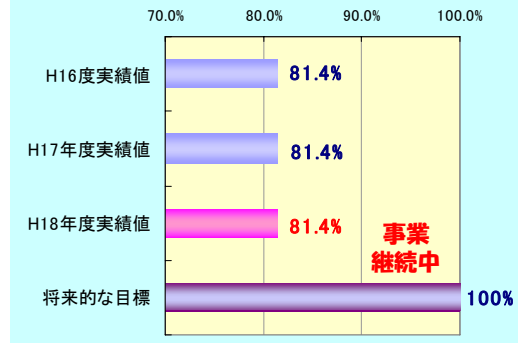
■達成度報告

○平成18年度は、北関東自動車道、上信自動車道、国道120号、椎坂バイパス、(主)前橋長瀬線、(一)大原境三ツ木線等の整備を進めましたが、新たに供用開始となった区間がなかったため、指標は前年度から変化なしの81.4%のままとなっています。

【平成18年度に実施した主な対策事業】

道路名	事業の内容	「幹線交通乗り入れ30分構想」が新たに達成可能となる市町村
北関東自動車道	伊勢崎IC以东への延伸	桐生市、太田市、大泉町 (北関東自動車道(仮)太田IC)
上信自動車道	整備促進	東吾妻町(旧吾妻町)、長野原町、嬭恋村、草津町、六合村 (上信自動車道)
国道120号	椎坂バイパス整備(沼田市)	片品村(関越自動車道 沼田IC)
(主)前橋長瀬線	バイパス整備(藤岡市)	神流町(旧万場町、旧中里村)(上信自動車道 藤岡IC)
(一)大原境三ツ木線	現道拡幅(太田市)	みどり市(旧東村)、桐生市(旧黒保根村)(北関東自動車道(仮)藪塚IC)

【目標の達成状況】



【到達可能市町村の状況(平成18年度末)】



【上信自動車道(国道145号)】



【(主)前橋長瀬線】



■今後の課題

○到達可能時間の短縮のためにはトンネル等の整備による大幅な経路の短絡がないと難しいため、北関東自動車道や上信自動車道の整備を促進することが求められます。

※未達成市町村のうち、平成15年度以降合併のあった市町村については市町村の前に「旧」を付けています。

指標9 規格の高い道路の利用率の向上（％）

○ 目標達成

目的地により早く、確実に到達できる規格の高い道路が利用される割合の向上を成果とします。

○平成17年度現況値：10.6%（注）

○平成18年度目標値：規格の高い道路の利用率向上を目指し事業を継続

○将来的な目標値：大幅な向上

○平成18年度実績値：0.2%の向上 ⇒ **目標達成**

（注）H17年現況値はH17実績値の確定値10.6%を記載しています。平成18年度業績計画書では、H17実績値の速報値10.4%を記載。

■昨年度までの状況

○平成17年度における本県における規格の高い道路の利用率は10.6%で、平成15年に比べると0.1ポイント上昇はしたものの、全国平均の13%を下回っております。

○本県において規格の高い道路の利用率が上がらない要因としては、比較的人口の多い県東部の太田市や桐生市などでインターチェンジまでのアクセスが悪いこと、北関東自動車道で未整備区間があることなどが考えられるため、高速道路の整備を促進するとともに、インターチェンジへのアクセス道路の整備を図ることが必要となっております。

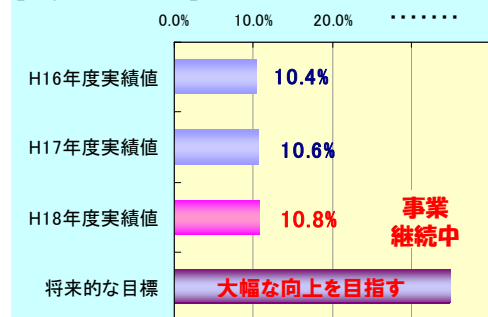
■達成度報告

○平成18年度も前年度に引き続き、北関東自動車道、上信自動車道、国道120号椎坂バイパス、(主)前橋長瀬線、(一)大原境三ツ木線等の整備を進めましたが、供用開始区間はありませんでした。

○平成18年度における規格の高い道路の利用率は10.8%と、平成17年度に比べ0.2ポイント増加しました。

○今後の対応としては、関越自動車道三芳PA・駒寄PAにスマートICが常設化されるなど、その効果が期待されています。

【目標の達成状況】



【上信自動車道(国道145号)】



【駒寄PAスマートIC】



■今後の課題

○北関東自動車道や上信自動車道などの整備を促進し、吾妻・桐生・東毛の各地方における規格の高い道路の利用利便を高めることが求められています。

○既存のインターチェンジへのアクセス道路の整備を促進し、利用しやすい環境整備を進める必要があります。

○スマートICの設置や高速道路の料金値下げなど、比較的短期間、低費用で実施できる利用利便向上策についても積極的に検討し、実施箇所を増加させていくことなどが求められています。

取組事例（駒寄PAにおけるスマートIC）

- 高速道路の利用促進に向けた取り組みとして、平成 16 年 12 月から、駒寄PAに ETC 専用出入口（スマート IC）を設置する社会実験を行っています。
- 社会実験を経て昨年度、駒寄スマート IC は常設化されており、平成 18 年中に管理は NEXCO 東日本に移管されています。その後も時間の経過とともに利用台数も上昇しており、地域の活性化に貢献しています。

【社会実験の概要】

実施目的	スマートICにより、規格の高い道路を利用しやすくすることで、高速交通網との連携による周辺地域の利便性向上及び活性化の効果を調査することを目的とします。
実施内容	関越自動車道駒寄PAにETC専用ゲートを設置し、高速道路への出入りを可能にするスマートICとして活用。
実施期間	平成16年12月10日～平成18年9月30日
対象車種	軽自動車、普通車
設置ランプ	フルサービス（上り線ON・OFF、下り線ON・OFF）
実験時間	6時～22時

【駒寄PAの位置】

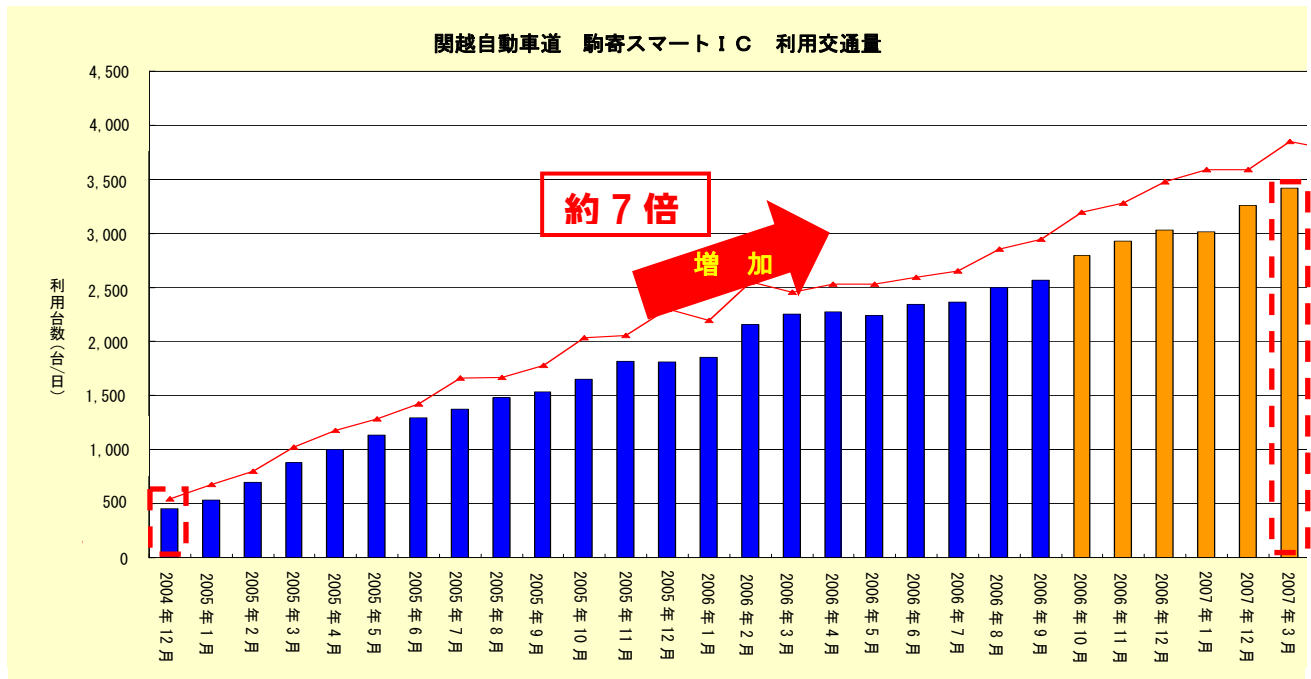


【スマート IC の設置詳細】



- 月別平均利用台数は社会実験開始当初の平成 16 年 12 月の 452 台/日から平成 19 年 3 月には 3,417 台/日に 7 倍の増加を見せ、さらに平成 18 年 3 月からの 1 年間でも 1.5 倍の増加が見られています。また、隣接する前橋 IC 及び渋川伊香保 IC の利用者も伸びていることから、スマート IC の整備による純粋な増加であることがわかります。

【月別平均利用台数及び1日の最大利用台数の推移】



情報の公開

指標 10 ホームページアクセス数

継続中

国土交通省高崎河川国道事務所、群馬県道路関係課のホームページアクセス数を増加を成果とします。

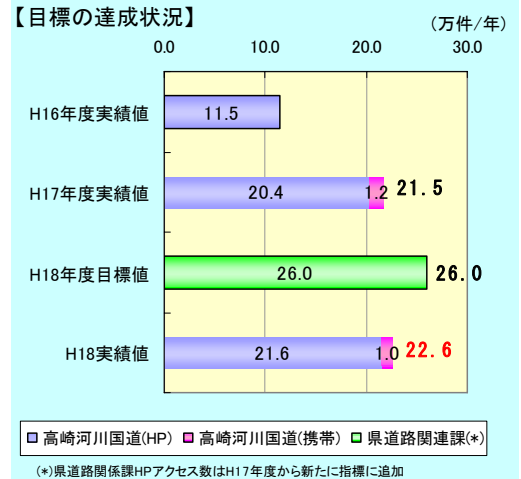
- 平成17年度現況値：216,526件/年（高崎河川国道事務所分のみ）
- 平成18年度目標値：平成17年度の約20%増加（約26万件/年）
- 平成18年度実績値：226,378件/年 ⇒ **継続中**
（高崎河川国道：215,979件/年、県道路関係課：10,399件/年）

■昨年度までの状況

- 平成16年度は約11万件であった年間アクセス数は平成17年度には約21万件と1.9倍の高い伸びとなりました。
- 高崎河川国道事務所 HP のトップページをリニューアルしたほか、新たに渋滞箇所及び交通安全危険箇所を图示し、「見える化プラン」を掲載するなど、県民の皆様にはわかりやすい情報提供に努めました。

■達成度報告

- 平成18年度は、ライブカメラをリニューアルしたほか、「道のヒミツ2」を掲載するなど、県民の皆様にはわかりやすい情報提供に努めました。
- 国土交通省高崎河川国道事務所及び群馬県道路関係課の平成18年度アクセス数は、226,378件/年と、平成17年度からの伸び率が低下しています。今後もホームページ内容の充実と、改善を進めていく必要があります。
- HP アクセス数を季節別に見ると、冬場（1月-3月）のアクセス数が前年度に比べて増加しています。



【高崎河川国道事務所のホームページ】



【群馬県道路関係課のHP】



【平成18年度に新たに高崎河川国道事務所HPに追加された「たかさキッズ」と「群馬みちかわい!」】

■今後の課題

○今後とも群馬県民ならびに群馬県の道路利用者の情報ニーズを的確に把握し、それらをわかりやすく提示したホームページづくりを進めるとともに、HPアクセス数の拡大や、年間を通じての有益な情報提供など、さらなる充実に努める必要があります。

10. 今後の課題

平成15年度から始まった成果主義の道路行政マネジメントは、事業の成果を検証する指標を用いて、毎年度事業評価・分析結果を公表するとともに、次年度の事業に反映するマネジメント・サイクルとして四巡目を迎えました。平成19年度の道路行政の推進にあたっては、より一層、県民の皆様ならびに群馬県の道路利用者の方々の実感に合う道路行政の実現に向けた取組を進めていきます。

方針	課題	成果指標(単位)	H17現況値	H18目標値	H18実績値	目標達成状況	今後の課題
県民の暮らしを守り、安心した暮らしを実現する道路整備	交通事故の削減	あんしん歩行エリアの整備(箇所)	16箇所 (着手14箇所)	16箇所 着手しあんしん歩行エリア内の死傷事故件数2割削減に向けて事業を継続する。	着手15箇所 ・完了7箇所 ・事業中8箇所	事業継続中	—
		事故危険箇所への対策推進(箇所)	174箇所 (着手156箇所)	着手165箇所(完了148箇所、一部完了15箇所)とし死傷事故件数3割削減への事業を継続する。	着手165箇所 ・完了140箇所 ・一部完了22箇所	事業継続中	群馬県の各道路管理者で実施している「交通安全見える化プラン」との整合について検討する必要有り。
		死傷事故率の減少(件/億台キロ)	144.7件/億台km ^{注1}	死傷事故率の削減を目指す。	140.2件/億台km	目標達成	—
	医療・福祉の向上	総合病院30分到達カバー圏域の拡大(%)	83.6%	カバー圏域の拡大を目指し事業を継続する。	83.6%	事業継続中	5年先を見通した計画であるため、5年後の目標値設定等、目標値の設定や達成率のあり方について、次期5カ年計画では検討する必要有り。
環境を保全し、豊かな生活を支援する道路整備	渋滞の解消	渋滞箇所への対策推進(箇所)	対策事業 ・完了25箇所 ・一部完了20箇所 ・未整備15箇所	新たに、完了2箇所、一部完了1箇所への対策を推進する。	対策事業 ・完了27箇所 ・一部完了24箇所 ・未整備9箇所	目標達成	群馬県の各道路管理者で実施している「渋滞見える化プラン」との整合について検討する必要有り。
		渋滞損失時間の削減(万時間/年)	対策完了予定2箇所の渋滞損失時間 14.3万時間/年	渋滞損失時間の削減を目指す。	対策完了2箇所において約0.6万時間/年削減 (4.2%削減)	目標達成	
	自転車の確保	サイクリングロード整備率(%)	60.2%	平成18年度の「サイクリングネットワーク計画」概成に向けて事業を継続する。	64.5%	事業継続中	5年先を見通した計画であるため、5年後の目標値設定等、目標値の設定や達成率のあり方について、次期5カ年計画では検討する必要有り。
地域の自立と個性を守る道路整備	産業・観光の振興	幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大(%)	81.4%	幹線交通30分乗り入れ圏域の拡大を目指し事業を継続。将来的には100%(すべての市町村が30分圏域に)を目指す。 (平成18年度実績値:81.4%)		事業継続中	神流町など、既存の道路整備計画だけでは達成が困難な市町村の取扱いについて検討する必要有り。
		規格の高い道路の利用率の向上(%)	10.6% ^{注2}	規格の高い道路の利用率向上を目指し事業を継続する。	0.2ポイントの向上 (平成18年度実績値:10.8%)	目標達成	—
情報の公開	情報の公開	ホームページアクセス数(件/年)	216,526件/年 (HPアクセスのみ ^{注3})	平成17年度の約20%増加を目指す。 (約26万件/年)	226,378件/年 対前年度比0.5%増	継続中	アクセス数については、PCの普及状況よりある程度安定してきたと考えられ、今後はリピーターアクセスが増加するような情報提供について検討の必要有り。

(注1) H17年現況値はH17実績値の確定値144.7件/億台kmを記載。平成18年度業績計画書では、H17実績値の速報値142.3件/億台kmを記載。

(注2) H17年現況値はH17実績値の確定値10.6%を記載。平成18年度業績計画書では、H17実績値の速報値10.4%を記載。

(注3) 平成18年度の国土交通省ホームページカウンターが故障していたため、携帯アクセスをカウントから外した値と比較。